

06.10.12 一新塾名古屋勉強会 定例会記録

開催日時：平成18年10月12日（木）19：00～21：30

場所：名古屋ボランティア NPO センター

出席者：（敬称略）加部、水野、近藤、宮田、榊原、高瀬、[オブザーバー参加]加藤さん

記録者：榊原

0. 次回、次々回の定例会について

11月21日（火）、12月8日（金）にいつものボランティア NPO センターで行う。

1. 「市民主体の公会計システム」（水野）

今年5月に、総務省 新地方公会計制度研究会（座長 慶応大 跡田 直澄^{なすみ}）から、3年以内に地方の新しい公会計システムを作ろうということが発表された。

現行の地方自治体の会計システムは、金銭をつけているだけで、予算化のために決算をどう生かすかという視点がない。予算をつくるための意思決定のシステム即ちガバナンスがない。現状の総務省が出しているバランスシートは、単に財産目録にしかすぎず、これでは分析ができない。住民にどれだけメリットがあるのかというアウトカムに基づく評価はできない。

「公会計革命」（桜内 文城）（講談社現代新書）という本では、国ナビ（国家財政ナビゲーション）というシステムが紹介されており、これを使えば、将来にわたってどれだけ負担が残っているのかが一目瞭然でわかる。また複式簿記へ移行できる。しかし、このシステムでも政策評価、アウトカム評価、DCF 評価までには踏み込めていない。

住民の将来のアウトカムが分かり、市町村長のわがままに左右されない予算化が行える新しい民主主義に向けた公会計システムの姿を目指したい。

水野提案として、桜内氏の「国ナビ」や名古屋組で3年程前に議論していた「住民の真利によるアウトカム創出」プロジェクトなどを結びつけ、公会計システムのあるべき姿を年内に具体化する。

跡田先生を呼んで来春ぐらいに名古屋でワークショップを実施する。

2. 「+++ マル秘 +++」（加藤 様）

詳細はマル秘。

本来の意味での民主主義を具体化する場所を実現し、社会性のある公共施設を目指していきたい。この受け皿となる NPO の立ち上げをしたいと思う。うまくいけばここでミニ行政が行えるかもしれない。獲得に向けて、愛知県林務科の財政状況、特に「設備投資費」、「委託管理費」について近藤が調査する。外郭団体であっても情報公開制度を活用し調査を行う。

加藤 さんには、是非、一新塾に入塾していただきたい。

3. 「もったいない運送クラブ」（榊原）

市民サービスづくりプロジェクトは、片岡代表理事の指導をうけて、NPO 支援による間接的なサービス創出から、現場主義に基づいた直接的なサービス創出に方向転換する。片岡代表理事が関わっている旅館吉田屋の女将山根 多恵さんが島根で行っている『もったいない運送クラブ』を東海地区で行う。この活動自体はボランティア＝無報酬であるが、活動の真の狙いは、活動を通じて地域の未解決問題（＝地域ニーズ）の発見と市民サービスの担い手になる人材の発掘・育成を行うこと、次段階の市民サービスにつなげることだと確信している。

なお11月の中間発表は、今までどおり「市民のためのサービスづくり」について行う。

4. 「市民のためのサービスづくり」(高瀬)

まず自分たちが、身近なニーズからサービス提供を始め、人を巻き込みながら育っていく。そうして大きく育っていった NPO 支援機関の方が成功しているのではないか？このことを仮説として中間支援機関の調査を行う。中間発表までに地元の中間支援機関のいくつかは回る。調査対象の中間支援機関と調査内容については配布資料のとおり。

プロジェクトは流動的だが 11 月中間発表後に、近藤さんの納税者権利プロジェクトとの結合について考え 12 月にまとめる。

5. 「NPO まちづくり協働研究所の活動について」(宮田)

中山道を中心とした地域開発ということで、中山道会館を指定管理しているある別の NPO の部会とのコラボレーションで、地域づくりの年間計画を企画し、情報発信を行っていく。年間計画に沿ったイベントも既に行った。NPO は収益源を確保して自立して運営していくつもり。中山道をつなげて一つパッケージサービスとして提供していきたい、この小さいモデルをプロジェクトの中に入れていこうとしている。

(以上)